

挑戦を支える高い品質 全方位ビジネスで成長続ける

ダイト株式会社
代表取締役社長

大津賀 保信 氏



代から海外展開を始め、米国では2008年にイリノイ州で現地法人を設立し、原薬を輸出しています。また、中国では2012年に大桐製薬有限責任公司を設立し、製剤を製造しています。

日本では高寿命社会になり、がんの発生率が上がっていることから、抗がん剤などの高薬理活性製剤を製造する第7製剤棟を2014年に整備し、その後も高薬理R&Dセンター、第8製剤棟と増強してきました。時代の風をつかみ、変化の流れに乗るようにしています。

現在、原薬と製剤の売上比率は、受託も含めてほぼ半々です。

取り扱い品目が多岐にわたりますが、管理体制はどのようにされていますか。

受託製造では委託元の仕様に準拠しないとけません。定期的な査察で作業履歴を確認され、毎回新たな課題を指摘されます。その指導に対応していくことの繰り返しで、自ずと品質管理がレベルアップしてきました。それを一元化し、自社製品にも適用します。

－米国の品質基準に対応－

昨年12月には品質保証棟を開設されました。

工場が増えて、人も多くなったので、管理体制を集約する必要があります。あったこともありますが、米国へ原薬だけでなく製剤を輸出する大きな目標があるので、それに向けての整備です。

米国FDA（食品医薬品局）の製造・品質基準は日本よりも厳しく、当社は1990年代からその査察に対応してきました。年々FDAの査察基準が厳しくなっており、最近では輸出対象の品目だけでなく、日本国内向けの作業記録も含めて

全体をチェックするようになってきました。今後、製剤を輸出するためには、FDAのより高いレベルの審査を通らないといけません。施設だけでなく品質担当の執行役員も増員して体制を強化しています。

人材育成はどうされていますか。

日本のGMP^(注2)については社内で勉強会も開いていますが、委託元からの指導に対応することが一番勉強になります。一種のOJTですね。階層別研修はコンサルタントを招いて実施しており、課長以上の管理職は外部のセミナーで、別の会社の人と一緒に研修を受けてもらっています。

これからの時代は、ダイバーシティ、多様性が必要です。将来上に立つ人は、自部門だけでなく全体を見て考えるようにならないといけません。能力のある人には色々な経験をしてもらうようにしたいと思っています。

－経営理念の主語は“社員”－

経営理念に「楽しい会社、楽しい仕事」とあります。

「楽しい会社・楽しい仕事」というのは以前から言っていた社風のようなものですが、上場から10年を迎える2020年に「CSR報告書」を作る際、社是や行動指針とともに明文化しました。主語は社員になっています。

略歴

1950(昭和25)年10月富山市生まれ。1973年明治薬科大学薬学部卒。75年大東交易(株)(現ダイト(株))に入社し、99年から子会社の大和薬品工業(株)社長を務め、2005年ダイト(株)常務、専務、副社長を経て、2012年8月から代表取締役社長。富山県医薬品工業協会会長。



朝礼で社員を前に

当社では、社員が仕事を通じてレベルアップすることで会社も成長し、社会への貢献にもつながると考えており、会社の中心は“社員”ですので、社員の意見を聞くようにしています。

会社への要望は、私を含め全役員が目を通して共有しています。各部署から上がってくる業務上の提案以外にも、通路が暗いとか机が狭いとか、色々な意見が寄せられるのですが、できるだけ要望を受け入れるようにしています。そうしないと、社員も言いづらくなるでしょう。

風通しの良い会社ですね。

社内では全員“さん”づけで、私も「大津賀さん」と呼ばれています。これも意見が出やすい1つかもしれません。

近年、業界内で品質管理の不正問題が表面化し、富山県では医薬品メーカーに内部通報制度の整備を求めています。ただ、本来何かあれば事前に相談があるはずで、そこで聞いてもらえないから内部告発することになると思うんです。社内の風通しの良さは品質管理にも繋がると思います。

そういう意味で、コロナ禍前は毎年社員主体で全社員に声掛けしてクリスマスパーティーをやっていました。部署ごとに専門的になりがちな社内の交流に役立っている

たと思うのですが、パーティーに替わる工夫をしたいですね。

今後の取り組みを教えてください。

ジェネリック医薬品は使用率が80%以上とされるなど飽和状態に近くなっています。幸い当社は、全国の製薬企業の9割と何らかのお付き合いがあります。新薬もあれば、ジェネリック、市販薬もある。お客様と真摯に向き合い、あらゆるビジネスチャンスをつかんでいく「全方位ビジネス」を基本に挑戦を続け、信頼を積み重ねていきたいと考えています。

そして海外では、米国への製剤輸出、中国市場への進出機会をうかがっています。東南アジアにも小規模ながら輸出しておりますが、拡大チャンスがあればと思っています。

座右の銘をお聞かせください。

「着眼大局、着手小局」です。ゴルフと一緒に、仕事もいかにフォローの風をとらえるかが肝心です。今、円安で原材料価格の高騰というアゲインストの中でコスト削減を考えなくてはいいませんが、一方で輸出にはフォローです。常に時代の流れを読んで、手を打っていきます。

会社概要

ダイト株式会社

創業：1942(昭和17)年6月
所在地：富山市八日町326番地
資本金：70億3,132万円

(2022年5月末現在)

事業内容：医薬品原薬、製剤等の製造販売
従業員数：743名(2022年5月末現在)
売上高：434億6,406万円

(2022年5月末現在)

事業所：大和薬品工業(株)、
Daito Pharmaceuticals America, Inc.
大桐製薬(中国)有限責任公司、
ほかグループ会社2社

URL：https://www.daitonet.co.jp/

(注1) OTC医薬品：一般用医薬品、要指導医薬品

(注2) GMP：医薬品の製造・品質の管理基準